

平成21年度

通常総会

平成21年5月11日（月）15:00～16:00

ル ブ ラ 王 山

総会次第

- I. 開会の辞
- II. 支部長挨拶
- III. 本部役員挨拶
- IV. 議 事
 1. 平成20年度事業報告
 2. 平成20年度決算報告
 3. 会計監査報告
 4. 平成21年度役員改選結果報告
 5. 平成21年度役員
 6. 平成21年度事業計画（案）
 7. 平成21年度予算（案）
 8. 支部表彰規定改定案
 9. その他
- V. 閉会の辞

（社）情報処理学会東海支部

事務局

〒460-0003

名古屋市中区錦2-17-21 NTTDATA伏見ビル内

TEL：(050)5556-2856 FAX：(052)204-4783

E-mail：:ipsj_tsj@nttd-ms.co.jp

1. 平成20年度事業報告

1.1 支部総会

平成20年5月16日(金) 愛知厚生年金会館
参加者264名 (委任状225名を含む)

1.2 評議員会

第1回 平成20年 5月16日(金) 愛知厚生年金会館 参加者31名
第2回 平成20年12月 1日(月) 東桜会館 参加者22名
第3回 平成21年 5月11日(月) ルブラ王山

1.3 幹事会

第1回 平成20年 4月 7日(月) 東桜会館 参加者14名
第2回 平成20年 6月 9日(月) 若竹クラブ 参加者 8名
第3回 平成20年10月 6日(月) 若竹クラブ 参加者 9名
第4回 平成20年11月17日(月) 若竹クラブ 参加者 8名
第5回 平成21年 1月26日(月) ルブラ王山 参加者 8名

1.4 電気関係学会東海支部連合大会 共催1回

- ・期 日：平成20年9月18日(木)、19日(金) 2日間
- ・会 場：愛知県立大学
- ・主担当学会：情報処理学会東海支部
- ・情報処理学会東海支部からの実行委員

委 員 長：岩田 彰 (名古屋工業大学)
委 員(4名)：孫工 昇嗣 (セイノー情報サービス)
荒木 円博 (豊田中央研究所)
岩堀 祐之 (中部大学)
若原 達朗 (東邦ガス情報システム)
幹 事(4名)：大久保弘崇 (愛知県立大学)
小尻 智子 (名古屋大学)
内藤 博 (中部電力)
本谷 秀堅 (名古屋工業大学) 事務局兼任
事 務 局：本谷 秀堅 (名古屋工業大学)
中谷 正美 (情報処理・東海支部)

- ・シンポジウムとチュートリアルテーマと世話人(情報処理学会関係分)

S1 テーマ：「長寿福祉社会のための基盤技術の現状と課題」
世話人：安川 博氏 (愛知県立大学)
T1 テーマ：「Matlab実習：音声スペクトル解析」
世話人：山村 毅氏 (愛知県立大学)

- ・一般講演者 617件 (オーラルセッション523件、ポスターセッション94件)
- ・企業展示 3社
- ・広告・援助企業数 77社
- ・特別講演参加者数 96名
- ・懇親会参加者数 80名
- ・大会参加者数 1,218名

幹事会

第1回 平成20年 4月7日(月) 東桜会館 第1会議室
第1回実行委員会に統合

議題：開催日程・実施概要他

第2回 平成20年 7月22日(火) 名古屋工業大学 6号館11階大会議室

議題：大会プログラム編成

第3回 平成20年 9月19日(金) 愛知県立大学 情報科学部棟1階 会議室C107

議題：運営上の反省点および来年度への申し送り事項

実行委員会

第1回 平成20年 4月 7日(月) 第1回幹事に統合

第2回 平成20年 8月 1日(金) 名古屋工業大学 3号館2階会議室

第3回 平成21年 1月26日(月) ルブラ王山 奨励賞表彰式・懇親会

大会の特記事項及び主な反省事項

奨励賞等選考数(奨励賞+B賞+IEEE学生奨励賞) 合計：40名

審査希望申請者数 合計：408名

情報処理学会受賞者 : 6名

IEEE学生奨励賞 上杉健太郎(名古屋大学)

〃 藤田 桂英(名古屋工業大学)

連合大会奨励賞 山下 真生(名古屋工業大学)

〃 辻野 純平(名古屋大学)

〃 Wei Fan(名古屋大学)

〃 林 佑樹(名古屋大学)

(昨年度は選考数31名、申請者数479名、審査希望者数303名、情報処理学会6名受賞)

次年度以降の予定

平成21年度

会場校：愛知工業大学

期 日：平成21年9月10日(木)，11日(金)

主担当学会：電子情報通信学会東海支部

平成22年度(案)

会場校：中部大学

期 日：未定

主担当学会：電気学会東海支部

1.5 講演会 6回(主催6回)

(1) 平成20年5月16日(金)

演題：「インターネットの過去と未来」

講師：鈴木 幸一 氏

(株式会社インターネットイニシアティブ 代表取締役社長)

於：愛知厚生年金会館

参加者 69名

コメント：講演は、1960年代後半から70年代のシリコンバレーを包む熱気の話から始まった。今日のインターネットを支える考え方は、ベトナム戦争を背景とする、シリコンバレーに集まった優秀な若者たちの counterculture から生み出されたことや、既成の価値基準を壊そうというアナーキズムがインターネットという考え方の根幹に組み込まれていることなどが説明された。また、既成の価値基準を壊すこと自身の価値が日本では共有されておらず、法を犯してまで理想的な社会を実現しようという発想が、日本では米国に比べて希薄であることが指摘された。講演内容は、日本の携帯事業やソフトウェア産業の構造上の問題点や、ソフトウェアによる世界を変革することの意義など、多岐にわたった。講演後の質疑では、実世界におけるコミュニ

ケーションの体験が希薄なままにインターネットにおけるコミュニケーションに慣れ切ってしまうことの弊害を、鈴木氏が危惧していることなどが語られた。インターネットが、counterculture から生み出された、本質的にアナキーなインフラストラクチャであることを知ることもでき、極めて有意義な講演であった。

(2) 平成20年10月27日(月)

演題：「アーキテクチャ記述言語ADLの流れを車載組み込み現場目線で追う」

講師：鈴木 延保 氏

(アイシン精機株式会社 第1電子系技術部 主査)

於：東桜会館1階 第2会議室

参加者15名

コメント：ソフトウェアの構造の記述の中で、機能的な構造（一まとまりの機能を提供する部品と、部品間の接続：電気工学などにおけるブロックダイアグラムに相当）の記述を重視しているアーキテクチャ記述言語について、自動車業界を中心とした産業界での取り組みの歴史や、類似の構造記述体系（UMLなど）との関係が紹介された。欧州の自動車業界で精力的に取り組まれていてEAST-ADLという言語が制定されている。UMLとの関係については、UML1版ではクラス図による概念構造（実装寄りの立場ではデータ構造やモジュール構造）の記述が主だったのに対し、UML2版では、既にEAST-ADLに取り組んできた欧州自動車業界などの働きかけで機能的構造の記述力も強化された旨の説明があった。参加者との活発な質疑応答が行われ、また講演会終了後に参加者同士の議論も行われ、有意義な講演会となった。

(3) 平成20年11月18日(火)

演題：「知識の動的再構成を支援するシステムについて」

講師：堀 浩一 氏

(東京大学 大学院工学系研究科/先端科学技術研究センター 教授)

於：名古屋大学大学院 工学研究科1号館131講義室

参加者53名

コメント：知識獲得とは、事実・数値に対応する「データ」、ある事柄についての知らせである「情報」、役に立つ性質を意味する「価値」、組織付けられ妥当なものである「知識」の往復運動である。人工知能分野の技術では、データから知識を抽出するためにデータマイニングなどの機械学習の技術、形式的に整った形で知識を記述するためにオントロジーの技術、知識の動的再構成を支援するために創造活動支援の技術を用いて知識獲得を支援することができる。本講演では、まず、このような知識と知識獲得の捉え方、および知識獲得における人工知能分野の技術の役割について述べられた。

その後、堀先生が開発された知識の動的再構成システム” Knowledge Nebula Crystallizer” について紹介された。

知識の動的再構成とは、人の頭の中にあるもやもやした知識を構造化したり（結晶化）、新しく得られた情報を基に既存の知識構造をばらばらにしたり（液状化）する行動を繰り返すことである。” Knowledge Nebula Crystallizer” は知識の液状化と結晶化を促進するためのツールであり、生成した知識を記述すると共に、他の知識との関連を動的に生成したり削除したりすることができる。本講演は、堀先生が本システム上に数年間書き溜め・再構成してきた知識を、システムのプレゼンモードでプレゼン形式に変換して順に表示することで進められた。パワーポイントなど既存のプレゼンテーションソフトを利用しないだけでなく、プレゼンされている話題と関連のある知識が臨機応変に次から次へと提示され、とても印象深いプレゼンテーションであった。

質疑応答では” Knowledge Nebula Crystallizer” での時間の扱いやシステムの評価などに関して活発な議論がなされた。53名ものたくさんの聴講者が集まり、大変有意義な講演会であった。

(4) 平成20年12月1日(月)

演題：「テキストマイニング技術 ～最新動向と研究事例紹介～」

講師：瀬川 修氏 (中部電力(株) 電力技術研究所 研究副主査)

於：東桜会館1階 第2会議室

参加者57名

コメント：近年、テキストマイニングという文章の解析技術が注目を集めている。テキストマイニングは、非定型なテキストデータ（アンケート、メール、電話受付メモなど）を対象としており、企業活動において顧客ニーズの収集やマーケティングのための分析技術として期待されている。まずは、テキストマイニングの概論では、テキスト情報の山から文字どおり「宝さがし」をする分析支援するツールであり、さまざまな要素技術が利用されていることが紹介された。また、技術動向として、産業界での商用化の現状やニーズについて解説がなされた。

その後、研究開発事例として、独自開発されたテキストマイニングツールについて紹介された。このシステムは、分析結果の見える化に重点をおいて開発されており、評判分析などの文書の分類機能や主題分析などのキーワード分析機能をもとに、その結果を直観的に視覚化できる汎用的なツールボックスである。実際にデモ画面を交えて解説がなされたため、その特徴的な視覚化技術がとても印象的であった。

今後の応用としては、音声・Webマイニングへの適用が期待されており、参加者との活発な質疑応答も行われ、今後の可能性の拡がりを実感することができた。

(5) 平成21年1月16日(金)

演題：「Webアプリケーションのセキュリティ」

講師：高木 浩光 氏

(独立行政法人産業技術総合研究所 情報セキュリティ研究センター 主任研究員)

於：中部大学 リサーチセンター 2階大会議室

B 参加者47名

コメント：産業技術総合研究所の高木浩光氏に近年のWebアプリケーションの脆弱性とその解決策に関する講演をしていただいた。Webアプリケーションの典型的な脆弱性として、セッション関係、インジェクション関係、エンコードの問題などがある。ログイン中であればパスワードの再入力なしに変更画面に入れ、様々な個人情報を閲覧できてしまい、誤ったセッション追跡方式でパスワードなしにログインできてしまう問題や、秘密情報を含まないCookieによるアクセス制御方式の脆弱性、セッションハイジャックなど様々な危険がある。これらを防ぐには、メタ文字のエスケープコーディング、CookieのSecure属性、2つのセッションIDを使う方法などの対策があるなどの話を伺った。システム開発者への周知をはじめ、フィッシングサイトなどの対策向けにも、安全なWebサイト利用のためのガイドラインやツールバーによる利用者補助のシステムを開発してきたとの対策が紹介された。

(6) 平成21年3月9日(月)

演題「ヒューマンロボットインタラクションにおける感情情報処理」

講師：加藤 昇平 氏 (名古屋工業大学大学院 工学研究科 情報工学専攻 准教授)

於：名古屋工業大学 2号館2階I1教室

参加者18名

コメント：ifbotと呼ばれるロボットをプラットフォームとして、感性にまつわる3つの研究取り組みについてご講演いただいた。(1) ロボットの表情による感情情報の表現、(2) 音声による話者の感情の推定、(3) 会話過程をふまえたロボットにおける感情生成。ロボットifbotは眼球や首を動かすモータを10個搭載している。(1)では、これらモータを適切に制御して表情生成にするのに有用な空間をニューラルネットワークにより構築する手法とその成果が示された。(2)では音声認識を介さず、基本周波数や発話のスピードなどいくつかの信号情報のみに基づいて話者の感情を推定する手法が示された。その推定にはベイジアン・ネットが活用されていた。(3)はRusselの感情円環表現を活用し、人との会話過程に基づいてロボットに感情を生起させる試みが紹介された。上記研究の概略を、動画によるデモンストレーションを交えながら、分かりやすく解説していただいた。

感性情報処理に関する最近の研究動向を知ることができ、有意義な講演であった。

1.6 研究会他 6回(協賛6回)

- (1) 平成20年9月16日(火), 17日(水)
名古屋大学組込みシステム研究センター シンポジウム
― 技術人材育成の取り組みと課題
および、NCES 06-07年度 共同研究プロジェクト 活動報告
(協賛、主催:名古屋大学大学院情報科学研究科附属組込みシステム研究センター)
- (2) 平成20年9月16日(火)
名古屋大学大学院情報科学研究科学術講演会
(協賛、主催:名古屋大学大学院情報科学研究科
共催:教育システム情報学会東海支部)
- (3) 平成20年9月25日(木)~26日(金)
情報学ワークショップ2008(第6回)
(協賛、主催:名古屋大学大学院情報科学研究科
共催:静岡大学情報学部・愛知県立大学情報科学部・
名古屋工業大学情報工学科)
- (4) 平成20年11月11日(火)~13日(木)
フロンティア21エレクトロニクスショー2008
(協賛、主催:中部エレクトロニクス振興会・共催:(社)中部経営情報化協会)
- (5) 平成21年2月19日(木)~20日(金)
平成20年名古屋市工業研究所技術融合化シンポジウム
(協賛、主催:名古屋市工業研究所)
- (6) 平成21年3月13日(金)
専門講習会「グリーンITに向けた技術開発の最前線」
(協賛、主催:電子情報通信学会本部、同東海支部)

1.7 平成20年度学生研究発表会助成

助成:1件

「第12回 東海地区音声関連研究室 修士論文中間発表会」

実施日:平成20年8月1日 場所:豊橋技術科学大学

学生参加者104名(情報処理学会学生会員10名)

1.8 学生論文奨励賞

選定委員会:平成21年4月16日(木)若竹クラブ

表彰式:平成21年5月11日(月)於:ルブラ王山

授賞者:	安積 卓也(あづみ たくや)	(名古屋大学)
	兼弘 光明(かねひろ みつあき)	(愛知県立大学)
	杉木 健二(すぎき けんじ)	(名古屋大学)
	Subana Thanasegaran(サブナ タナセガラン)	(名古屋工業大学)
	趙章植(ちよちゃんしく)	(名古屋工業大学)
	永橋 知行(ながはし ともゆき)	(中部大学)
	萩原 正人(はぎわら まさと)	(名古屋大学)
	藤田 桂英(ふじた かつひで)	(名古屋工業大学)

(五十音順)

2. 平成20年度決算報告

2.1 収入の部

(単位：円)

平成20年4月1日～平成21年3月31日

収入科目	平成20年度	
	予算額	決算額
交付金	3,150,000	3,150,000
(本部交付金)	2,530,000	2,530,000
(賛助金還元分)	620,000	620,000
利息	3,000	2,696
前年度繰越金	974,117	974,117
その他(立替金)	1,000,000	1,000,000
計	5,127,117	5,126,813

2.2 支出の部

支出科目	平成20年度	
	予算額	決算額
1. 事業費	1,730,000	1,360,762
年次総会費	460,000	496,875
講演会・研究会費	280,000	221,006
支部連合大会費	350,000	132,594
支部表彰費	165,000	142,877
支部助成金費	110,000	30,540
会議費	365,000	336,870
2. 事務費	1,920,000	1,971,252
通信費	25,000	24,150
消耗品費	15,000	71,312
郵便運搬費	10,000	5,685
雑費	5,000	5,305
事務委託費	1,865,000	1,864,800
3. 予備費	1,477,117	
4. 次年度繰越金		1,794,799
計	5,127,117	5,126,813

3. 会計監査報告

平成20年度収支決算書・平成20年度監査報告書……………添付資料 (P13)

4. 掲載略

5. 平成21年度支部役員

(*新任、**再任、無印2年目)

役員		氏名	所属
支部長	*	孫工 昇嗣	(セイノー情報サービス)
副支部長	*	新田 恒雄	(豊橋技術科学大学)
幹事		岩堀 祐之	(中部大学)
		大久保弘崇	(愛知県立大学)
	*	加藤 昇平	(名古屋工業大学)
		小尻 智子	(名古屋大学)
	*	東道 徹也	(デンソー)
	*	長屋 匡紀	(中部電力)
監事		阿草 清滋	(名古屋大学)
評議員	*	浅井 徹	(愛知県産業技術研究所)
	**	有本 昇喜	(富士通中部システムズ)
		伊藤 秀昭	(中京大学)
	*	宇田川智之	(沖ソフトウェア)
	*	太田 義勝	(三重大学)
	*	奥野 清一	(デンソー)
		鎌部 浩	(岐阜大学)
		佐藤 淳	(名古屋工業大学)
		椎野 努	(愛知工業大学)
	*	鈴木 裕利	(中部大学)
		田中 義憲	(トヨタ自動車)
		長瀬 進治	(中部電力)
	*	蜂巢 吉成	(南山大学)
		林 誠	(日立オムロンターミナルソリューションズ)
	*	萩川 友宏	(静岡大学)
	*	丸山 稔	(信州大学)
	*	三浦 純	(豊橋技術科学大学)
		水野 徳重	(メイテツコム)
	**	三代沢 正	(セイコーエプソン)
	*	山村 毅	(愛知県立大学)
*	結縁 祥治	(名古屋大学)	
*	吉川 雅弥	(名城大学)	
**	吉澤 明芳	(萩原電気)	
	若原 達朗	(東邦ガス情報システム)	

(五十音順)

6. 平成21年度事業計画(案)

6.1 支部総会 平成21年5月11日(月) ルブラ王山

6.2 評議員会 3回

第1回 平成21年5月11日(月) ルブラ王山

第2回 平成21年12月上旬(予定)

第3回 平成22年5月(予定)(平成22年度支部総会開催日)

6.3 幹事会 5回

第1回 平成21年4月2日(月) 若竹クラブ

第2回 平成21年6月16日(火) 未定

第3回 平成21年10月上旬(予定)

第4回 平成21年11月下旬(予定)

第5回 平成22年1月中旬(予定)

6.4 支部大会(電気関係学会東海支部連合大会として)

期 日:平成21年9月10日(木)、11日(金) 2日間

会 場:愛知工業大学

主担当学会:電子情報通信学会東海支部

概 要:・特別講演1件

・シンポジウム3件・チュートリアル3件(情報からは各1件)

・一般講演(公募)

・懇親会

・広告募集・企業展示

・奨励賞

主 催:電気学会東海支部、電子情報通信学会東海支部、情報処理学会東海支部、
照明学会東海支部、映像情報メディア学会東海支部、日本音響学会東海支部、
電気設備学会中部支部、IEEE名古屋支部

6.5 講演会 主催7回

(1)平成21年5月11日(月)特別講演

演題:「学習科学とは何か」

講師:正高 信男氏(京都大学霊長類研究所 教授)

於 :ルブラ王山

(2)平成21年7月2日(木)

演題:「視覚の数理 --- だまし絵と立体錯視」

講師:杉原 厚吉氏(明治大学 研究・知財戦略機構・特任教授)

於 :名古屋大学

※上記を含め7回開催予定

6.6 研究会 随時

6.7 学生研究発表会助成

申請対象者:情報処理学会東海支部会員

助成対象:平成21年3月1日~平成22年2月28日の間に開催される研究発表会

申請期間:平成21年2月1日~平成22年2月28日

6.8 学生論文奨励賞

募集期間：平成22年1月中旬～3月中旬

選定委員会：平成22年4月中旬

表彰式：平成22年5月（通常総会）

6.9 幹事の業務分担について

業務別担当

- ・副支部長：新田副支部長（支部長のサポート）
- ・総括担当：岩堀幹事・大久保幹事（幹事の取りまとめ、会議資料（案）チェック、事務局補佐）
- ・庶務担当：小尻幹事（総務、議事録作成）
- ・会計担当：長屋幹事（会計管理・事務局監督員）
- ・学生担当：東道幹事
- ・ホームページ担当：加藤幹事（ホームページ掲載・イベント会員案内）

7. 平成21年度予算(案)

7.1 収入の部

(単位:円)

収入科目	平成20年度		平成21年度
	予算額	決算額	予算(案)
交付金	3,150,000	3,150,000	3,030,000
(本部交付金)	2,530,000	2,530,000	2,470,000
(賛助金還元分)	620,000	620,000	560,000
利息	3,000	2,696	2,000
前年度繰越金	974,117	974,117	1,794,799
その他(立替金)	1,000,000	1,000,000	0
計	5,127,117	5,126,813	4,826,799

7.2 支出の部

(単位:円)

支出科目	平成20年度		平成21年度
	予算額	決算額	予算(案)
1. 事業費	1,730,000	1,360,762	1,750,000
年次総会費	460,000	496,875	510,000
講演会・研究会費	280,000	221,006	280,000
支部連合大会費	350,000	132,594	300,000
支部表彰費	165,000	142,877	165,000
支部助成金費	110,000	30,540	110,000
会議費	365,000	336,870	385,000
2. 事務費	1,920,000	1,971,252	1,950,000
通信費	25,000	24,150	55,000
消耗品費	15,000	71,312	15,000
郵便運搬費	10,000	5,685	10,000
雑費	5,000	5,305	5,000
事務委託費	1,865,000	1,864,800	1,865,000
3. 予備費	1,477,117		1,126,799
4. 次年度繰越金		1,794,799	
計	5,127,117	5,126,813	4,826,799

8. 支部表彰規定改定案について
支部表彰規定改定案.....添付資料 (P14)

9. その他

9.1 支部ホームページの移行

(現在：本部ホームページ) URL <http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/>
(移行：5月末迄) URL <http://www.ipsj-tokai.jp/>

9.2 事務局について

*電話番号及びアドレス変更

社団法人 情報処理学会東海支部 事務局
〒460-0003
名古屋市中区錦2-17-21 NTTDATA伏見ビル6F
NTTデータマネジメントサービス(株)東海支店内
E-mail: ipsj_tsj@nttd-ms.co.jp
Tel: (050)5556-2856 Fax: (052)204-4783

平成20年度収支決算書

平成20年4月1日～平成21年3月31日
(単位：円)

収入科目	決算額	支出科目	決算額
本部交付金	3,150,000	1. 事業費	1,360,762
支部交付金	2,530,000	年次総会費	496,875
賛助金還元	620,000	講演会・研究会費	221,006
前年度繰越金	974,117	支部連合大会費	132,594
その他(立替金)	1,000,000	支部表彰費	142,877
利息	2,696	助成金費	30,540
		会議費	336,870
		記念行事	0
		2. 事務費	1,971,252
		通信費	24,150
		消耗品費	71,312
		郵便費	5,685
		雑費	5,305
		事務委託費	1,864,800
		3. 次年度繰越金	1,794,799
合計	5,126,813	合計	5,126,813

平成20年度監査報告書

平成21年4月3日

社団法人情報処理学会東海支部
支部長 岩田 彰 殿

平成20年度 情報処理学会東海支部

監事 阿草清滋 (阿草)

平成20年度収支決算書について監査の結果、その適正なことを認めます。

以上

情報処理学会東海支部表彰規程改定案

現行	改定案
<p>平成 11.1.20 作成 平成 11.4.27 改訂 平成 13.5.8 改訂 平成 14.5.10 改訂</p> <p style="text-align: center;">情報処理学会東海支部表彰規程</p> <p>(総則)</p> <p>第1条 支部規約第3条(5)項にもとづく関係事業として、業績ある者の表彰は、この規程により行う。</p> <p>第2条 表彰の種類は、次のとおりとする。</p> <p>1. 奨励賞 2. 学生論文奨励賞 3. その他、支部で特に認められた賞</p> <p>(奨励賞)</p> <p>第3条 奨励賞は、情報処理に関する学問、技術の奨励のため、有為と認められる新進の科学者または技術者に贈呈する。</p> <p>第4条 奨励賞を受ける者は、支部主催の種気関係学会東海支部連合大会(以下「支部連合大会」という。)および研究会に発表した者で、次の各号に該当するものから選定する。</p> <p>イ. 本学会東海支部会員であること。 ロ. 講演の時期において満35才以下であること。 ハ. 講演者として登録しかつ講演を行った者であること。 ニ. 本奨励賞を受けたことのない者であること。</p> <p>第5条 第4条の選定は、該当支部連合大会および研究会終了後速やかに行う。</p> <p>第6条 奨励賞は、原則として支部連合大会、研究会から5編以内とする。</p> <p>第7条 奨励賞は賞状および副賞とする。</p>	<p>平成 11.1.20 作成 平成 11.4.27 改訂 平成 13.5.8 改訂 平成 14.5.10 改訂 平成 21.5.11 改訂予定</p> <p style="text-align: center;">情報処理学会東海支部表彰規程(改定案)</p> <p style="text-align: center;">第1章 総則</p> <p>第1条 支部規約第3条(5)項にもとづく関係事業として、業績ある者の表彰は、この規程により行う。</p> <p>第2条 表彰の種類は、次のとおりとする。</p> <p>1. 学生論文奨励賞 2. その他、支部で特に認められた賞</p> <p>第3条 前条の各表彰の候補者または候補を調査選定には、賞ごとに選定委員会を設ける。各委員には委員長をおく。選定委員長は原則として支部長が当る。また、選定委員会の委員は委員長が推薦し、支部評議員会で承認を受けるものとする。</p> <p>第4条 各表彰の受賞者は、前条の委員会委員長の報告に基づいて、情報処理学会東海支部幹事会の議決で決定する。</p> <p>第5条 各表彰の受賞者への賞状などの贈呈は、総会などとあわせて適当な機会にできるだけすみやかに行う。</p>

現行	改定案
<p>(学生論文奨励賞)</p> <p>第8条 学生論文奨励賞は、支部に所属する学生会員（卒業後1年未満の会員を含む）で、情報処理に関する学問や技術の分野において優秀な業績をあげ、その将来を囑望される者に贈呈する。</p> <p>第9条 学生論文奨励賞の表彰は、年度毎に1回とし、その受賞者数は原則として8名以内とする。</p> <p>第10条 学生論文奨励賞を受ける者は、論文誌、または国際会議、情報処理学会の全国大会、電気関係学会東海支部連合大会（以下、学会講演という）のいずれかにおいて、自らの研究成果を発表した者で、次の各号に該当するものから選定する。</p> <p>イ、論文誌発表の場合は、掲載日時または採録決定日時が当該年度内であること。</p> <p>ロ、論文誌発表の場合は、当該論文に記名されている者であること。</p> <p>また、学会講演発表の場合は、講演者として登録し、かつ講演を行った者であること。</p> <p>ハ、学生論文奨励賞を申請した時点で、支部所属の会員であるか、または会員として入会を申請中であること。</p> <p>ニ、過去に学生論文奨励賞を受賞していない者であること。</p> <p>ホ、申請時において満30才以下であること。</p> <p>第11条 学生論文奨励賞の申請に際しては次の各項に掲げるものを選定委員会に提出する。</p> <p>イ、学生論文奨励賞申請書</p> <p>ロ、論文誌または講演予稿集の該当ページの写し。ただし、採録予定の場合は、原稿の写し、および採録通知</p> <p>ハ、発表内容梗概</p> <p>第12条 学生論文奨励賞は、賞状および副賞とする。</p> <p>(選定委員会)</p> <p>第13条 選定委員長は原則として支部長が当る。</p> <p>第14条 選定委員会の委員は委員長が推薦し、支部評議員会で承認を受けるものとする。ただし、支部連合大会については、別に定める支部連合大会奨励賞表彰規程による。</p> <p>(雑則)</p> <p>第15条 この規程に定めるもののほか、表彰規程の運用に関する必要な事項は別に定める。</p> <p>第16条 本規程の改廃は、支部総会の議決により行う。</p>	<p>第2章 学生論文奨励賞</p> <p>第6条 学生論文奨励賞は、支部に所属する学生会員（卒業後1年未満の会員を含む）で、情報処理に関する学問や技術の分野において優秀な業績をあげ、その将来を囑望される者に贈呈する。</p> <p>第7条 学生論文奨励賞の表彰は、年度毎に1回とし、その受賞者数は原則として8名以内とする。</p> <p>第8条 学生論文奨励賞を受ける者は、論文誌、または国際会議、情報処理学会の全国大会、電気関係学会東海支部連合大会（以下、学会講演という）のいずれかにおいて、自らの研究成果を発表した者で、次の各号に該当するものから選定する。</p> <p>イ、論文誌発表の場合は、掲載日時または採録決定日時が当該年度内であること。</p> <p>ロ、論文誌発表の場合は、当該論文に記名されている者であること。</p> <p>また、学会講演発表の場合は、講演者として登録し、かつ講演を行った者であること。</p> <p>ハ、学生論文奨励賞を申請した時点で、支部所属の会員であるか、または会員として入会を申請中であること。</p> <p>ニ、過去に学生論文奨励賞を受賞していない者であること。</p> <p>ホ、申請時において満30才以下であること。</p> <p>第9条 学生論文奨励賞の申請に際しては次の各項に掲げるものを選定委員会に提出する。</p> <p>イ、学生論文奨励賞申請書</p> <p>ロ、論文誌または講演予稿集の該当ページの写し。ただし、採録予定の場合は、原稿の写し、および採録通知</p> <p>ハ、発表内容梗概</p> <p>第10条 学生論文奨励賞は、賞状および副賞とする。なお副賞は図書カード1万円分とする。</p> <p>第11条 この規程に定めるもののほか、表彰規程の運用に関する必要な事項は別に定める。</p> <p>第12条 本規程の改廃は、支部総会の議決により行う。</p>